

南大谷の歴史

◆明治以降の変移

- 1868年 武蔵知県事→東京府→神奈川県に属する。
- 1878年 神奈川県南多摩郡南大谷村となる。
- 1889年 南大谷村、原町田村、本町田村、森野村が合併し、町田村大字南大谷となる
- 1893年 東京府南多摩郡町田村大字南大谷となる
- 1913年 町田町南大谷となる
- 1958年 町田市南大谷となる

◆文献

- ①「町田市の地名のいわれ」町田市立図書館 1993年

南大谷

むかしは大谷と呼んでいました、水田のある谷戸(谷のこと)のはばが、この近くでもっとも広く深いので大谷になったといわれています。八王子の大谷と区別するため、明治11年(1878年)に南大谷になりました。

- ②町田郷土史 森山金光 平成八年六月発行

地名

文禄年間(1558-69)の“小田原北条分限帳”には「大谷」と記載され、当時の集落は現在の玉川学園地区にありましたが、その後(年代不詳)住民は他地区に移住したと伝えられます。

天正・慶長(1573-1614)の頃に、他地区からの移住者により開拓されたのが現在の地域で、明治11年(1878)に八王子の大谷と区別するために現在の名になりました。

沿革

武蔵国多摩郡小山田庄木曾郷に属し、天正18年(1590)江戸開府により駿河大納言忠長の領地になり、その後、幕府直轄地になりましたが、寛永10年(1663)に旗本・久留忠兵衛正吉の知行地になりました。

慶応4年(1868)武蔵知県事の管轄になり、明治元年・神奈川県、同4年・第三十一区、同6年・第八区二番組、同7年・第八大三小区、同17年・原町田村戸長役場、同22年・町田村、大正2年・町田町、昭和33年・町田市の管轄になりました。

戸数・人口

享保年間（1716－35） 22戸

文政年間（1818－29） 26戸

明治4年（1871） 33戸 189人

生産高

正保年間（1644－47） 132石1斗3升1合

慶応4年（1868） 136石5升9合

③大日本地誌大系 新編武蔵風土記稿第四巻 1810~1830年

大谷村

大谷村は、群の東南都築郡の境にあり、江戸日本橋よりは十里の工程なり、當村古は本町田村の内なりしと云、されどその分村せしきもふるきことゝ見えて、【小田原役帳】には已に當村の地名をのす、又その比は小山田庄の内なるよしをしるせり、時の領主は小山田彌三郎にして、十四貫二百七十六文を知行せしことをのす、今は久留金之助正賀が知行にして、御入國の後ほどなく先祖忠兵衛正吉へ、近郷の采地と同く賜はりしと云、村の四境は、北より東へは成瀬村及び都築郡奈良村にて南高ヶ坂村に隣れり、西の方は森野村及び本町田の二村につゞき、東西八町、南北十町、家數二十六軒、村内に散住せり、地形高低あれど多くは平地なり、土性は野土にして瘠土なり、專糞培の力を借て耕種す、水田陸田相半せり、檢地は小田原分國の比天文十二年癸卯にたゞせしことは役帳に見ゆ、御打入の後檢地はいつの比にや今年歴を傳えず、

高札場 村の中央にあり

小名 三藏寺 村の東の境高ヶ坂村へまたがりてあり、昔かゝる名の寺院ありしなるべし、

船橋 中央なり

山川 川 水源は村の西本町田村より涌出し一條の川となり、村の中程を流るゝこと八町ばかりにして、南の方高ヶ坂村に至る、川幅一間より二間許りまでなり、この水を引て水田にそゞけり

神社 天神社 年貢地、八段程、村の中央にあり神地松杉及び雑木しげれり、村内の鎮守なり勸請の年代を知らず、本社に覆屋あり、三間に四間、拝殿二間半に二間、前に鳥居をたつ、共に南向なり、年々九月二十五日を例祭と定めり、南松寺持

寺院 南松寺 天神社地へ入る所にあり、則社地のうちなり、普化宗、橘樹郡神奈川宿西向寺の末、本堂二間に五間、本尊阿弥陀を安置す、開山開基詳ならず